

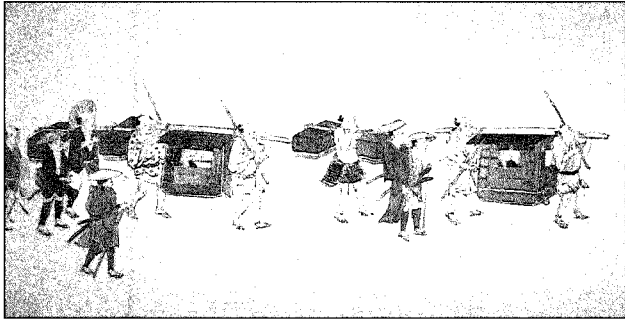
御茶壺道中その五

内藤 恭義

茶壺の谷村保管

宇治で採茶されたお茶は、茶壺に詰められ、採茶使の一行が厳重に警護する隊列のもとに、中山道甲州街道を経て江戸城へと運ばれるのですが、途中、甲州街道をそれて谷村勝山城に立ち寄り、勝山城の御茶蔵に茶壺の大半を預けて帰城する、というのが慣しでした。

將軍家が一年中、特に冬から春新茶の採れるまでの間使用する茶をどのように保存するか、今でも茶の保管は大変むずかしく、細心の注意が必要ですが、保存技術



宇治御茶壺の巻の内 御茶壺出立の図 その2 (司会 関 晋館蔵)

が未熟であった昔は、今のよう冷蔵庫があったり真空密封できる、という時代ではないので大変なことでした。

当時の保存法としては、空気の流通が少ない容器に詰めて、湿度の少ない寒冷な場所に置くことでした。その容器としては茶壺が最適とされ、寒冷地としては京都では愛宕山、駿河では大日峠が著名な保存場所であったことが知られているように、高い山での保管が最適とされていました。

その他の条件としては、茶壺を江戸城へ持ち帰る必要から、江戸への道の途中でなければならぬこと。しかも、なるべく江戸に近い所であること。保管を依頼できる管理責任者があることなどが考えられます。

この点、郡内は寒冷地であること。多少街道からはずれるとはいえ甲州街道沿いにあること。江戸から再び取りに行くにしても三日で往復できるという距離にあること。しかも、保管役としては徳川家康の近習筆頭人といって、後の老中職に当る重職を務めた、譜代の家臣、秋元泰朝の城地であることなどの好条件をそなえ、茶を越夏保存するにはうってつけの場所としてお城山(勝山城)が選定されたとみてよいでしょう。

茶壺道中が交通の便利な東海道を通らずに甲州街道を通った理由は、東海道は海沿いであり、湿度を嫌う茶の搬送に影響があるからこれをさけるため、と諸本は述べています。しかし、これは茶壺道中だけに当てはめた単なる理由だけではでしょう。茶を飲用するのは、当時既に一般化していましたが、大量の茶が江戸へ運ばれるのですが、これら一般の茶は単なる荷物として東海道を搬送されました。茶壺道中の茶だけが甲州街道を通るわけです。

その目的あるいは理由は、谷村が茶を保管する場所として選定された、ということに尽きるのです。ですから谷村保管が廃止されると、以降は湿度をさけるのに都合がいいはずの甲州街道を通るということはなくなり、洪水等による交通止めがあって中山道を通るようなことはあっても、ほとんど東海道が使われています。

ふるさとの八月

- 1日 石船神社例祭 石船神社
- 7日 金山神社例祭 金山神社(上谷)
- 10日 観音例祭 泉福院
- 28日 田原神社例祭 田原神社

9月1日“大名行列”を実施

商工業・観光の振興を目的に復活した大名行列も今年で12回を数えます。

当日は、消防団員、市内企業の社員、小・中学生等の方々が扮する大名行列に加え、幼児から大人まで参加できるイベントにしたいと準備を進めています。

イベントは、9月1日(木)午後4時から、谷村第一小学校校庭を中央会場として行う予定です。

皆さまのご参加、ご声援をお願いします。

生涯学習振興事業 水墨画教室

講師 日本習字墨画教授 中央公民館布はり絵教室講師 渡辺 浜 先生

期日 9月14・21・28日、10月5日

時間 各回共、午後1時30分～4時

場所 中央公民館(文化会館3階)

持ち物 習字用具(小学生が使用しているもの)

硯、墨、筆(大小)、半紙、皿(パレットに使用)

布(ふき取り用)

講師 渡辺 浜 先生

募集人員 市内在住者 20名(4回参加可能な方)

申込期日 8月23日～25日

(先着定員になり次第締め切りです。)

申込方法 電話で申し込んでください。なお、氏名、住所、年齢、職業、電話番号をお知らせください。

申込先 中央公民館(文化会館3階)

☎(43)1321

内線 42・43